

◆第4 1期事業計画の方針

SIAはプロスノースポーツ教師の集団であり、プロとしての指導活動が原点である。スノースポーツ愛好者に「安全にスノースポーツを楽しむ為」に技術力の向上、指導法を練磨し、大自然と共存することが、スノースポーツの普及に繋がると考える。そして、SIAの理念のもと、現在と将来の社会の変化に対応していく。特にインバウンドとデジタルへの対応強化を実施する。又、公認校のあり方も検討する。一方でプロとして、会員各位が弛まぬ質の向上を行い、プライドを持って指導にあたる事が、一流のサービスに繋がっていく。その為の有意義な研修機会の提供を実施する。そして、スノースポーツの安全確保の為に、会員各位・公認校と連携し、その実践と啓蒙活動を行う。予算・事務局経費の執行においては可能な限り削減に努めると共に、予算内の中で上記達成の為に、適切な分配と執行を行う。以上の達成の為に次の6項目を事業計画の方針とする。

1. 優秀なイグザミネー養成及び研修会参加率増への取り組み
2. 少子高齢化社会に向けての対応と取り組み
3. デジタル社会に対応する取り組み
4. インバウンドに対応する取り組み
5. スノースポーツの普及と公認校のあり方の検討。
6. 予算管理と事務局運営

◆第4 1期事業計画方針の具体的目標

1. 優秀なイグザミネーの養成
 - ① トップイグザミネーチームを編成し、イグザミネーの質向上を図る事による、研修・検定会の充実。また、検定合格基準の更なる平準化を行う。
 - ② 研修会については、各支部との協力のもと、会員の地域性や年齢別、性別、目的別など様々な要望に応じた内容の設定をし、参加意欲の向上を図る
2. 少子高齢化社会に向けての対応と取り組み
 - ① 公認校校長継承者不足への協力対応。
 - ② 若者が資格取得を目指すきっかけづくりと、待遇の改善。
 - ③ 退職後も含む中高年の方々が働きやすい環境づくり。
3. デジタル社会への対応
 - ① ホームページの刷新と内容の充実による魅力向上・会員マイページの設定による利便性向上。
 - ② Youtube等の動画の発信による情報共有とS I Aのアピール力向上。
 - ③ 会員・一般向け決済の利便性をあげ、サービス力向上。
 - ④ 教程等の教材および、Eラーニングの使用による利便性向上。
4. インバウンドに対応する取り組み
 - ① 外国語研修の実施。ステージⅡ英語での実施（フェスティバル時のみ）
 - ② 非公認校⇒S I A公認校へ。
 - ③ S I A・S A J・(一財)日本鋼索交通協会を含めた協議会との協力のもと、国に対して外国人経営非公認校に対する陳情を行う。
 - ④ 第1回アジア・環太平洋サミット（APSS）を実施。
5. スノースポーツの普及と公認校のあり方の検討
 - ①可能な限りの広報力を使い、安全なレッスンへの誘いを行う。
 - ②賛助会員・個人賛助会員・寄付は協会運営の大きな力である。増加を目指す。
 - ③現行の公認校制度が果たして適切なのか？現状と将来を見据えて検討を行う。
6. 予算管理と事務局運営
 - ①各部の責任において、予算執行を行うが、全体を見極め適切に運用する。
 - ②月次収支の確認。
 - ③支部会計との更なる連携。
 - ④事務局作業の外注⇔内製化を見極め、経費削減を行う。
 - ⑤現行を良しとせず、常に可能な経費削減を追求する。

第4 1期総務部事業計画（案）

- 方針：①ガバナンスの強化
- ②財務体質の健全化
- ③国際環境との連動
- ④本部支部との連携強化

<総務委員会>

- (1) ガバナンスの強化
 - ①啓蒙活動の強化
 - ・すべての行事において、SIA 理念を唱和し啓蒙活動に努める
 - ②おかれている状況に合わせた規約規程の見直しをする。
 - ③安全及び指導法の向上を図る（安全指導のガイドブックの配布及びセミナー情報の告知）
- (2) プロスノースポーツ教師として誇りを持って仕事を続けられる組織と環境づくり
 - ①他のスポーツ諸団体との友好親善関係を構築する
 - ②会員の夏期の仕事情報を収集・告知
 - ③非公認校是正にむけ諸官庁への働きかけを行う
 - ④会員証の刷新。会員証提示による特典の基盤づくり
- (3) 少子高齢化へ対応した協会運営
 - ・シニア会員の活動環境の支援・整備
 - ・若者が資格取得を目指すきっかけづくりと、待遇の改善
 - ・退職後も含む中高年の方々が働きやすい環境づくり
- (4) 会員との連携強化
 - ①広報部と連携し、会員に有効な割引やサービスなどの情報を提供する
 - ②顧問・参加からご意見を戴く場を年に一度設ける
 - ③永年会員の表彰
 - ④会員の意見を吸い上げるための予算化
- (5) 理事選出方法について
 - ①提案を作成し理事会で検討する

<財務委員会>

- (1) 財務体質の健全化
 - ①各部の責任において、予算執行を行うが、全体を見極め適切に運用する
 - ①経費節減を目指した予算案の作成
 - ②年会費の自動振替化の促進…自動振替化 60%を目指す
 - ③予算執行状況の早期確認と対応
 - ・毎週末、事業の執行状況、未実施事業の見通しを報告
 - ・月次収支の確認
 - ・赤字事業の見直し
 - ・事務局作業の外注⇔内製化を見極め、経費削減を行う
- (2) 会費収入の増加
 - ・広報部と連携し、新規会員の増加（正会員・法人賛助会員）

<国際委員会>

- (1) I S I A との関係強化
 - ① I S I A 総会、理事会に参加し加盟各国との交流、情報交換を行い、必要な情報を会員に伝達
 - ② SIA フェスティバル外国チーム招聘、広報活動
 - ③ 環太平洋地域の親睦強化
 - ・第1回アジア・環太平洋サミット（APSS）を実施
- (2) 国際環境との連動
 - ① インバウンドへの取り組みを推進
 - ② 非公認校⇒S I A 公認校へ
 - ③ S I A・S A J・(一財)日本鋼索交通協会を含めた協議会との協力のもと、国に対して外国人経営非公認校に対する陳情を行う。
 - ④ 外国人有資格者の活用＝ビザ発給要件緩和への取り組み
 - ⑤ 外国人の入会後の円滑な活動をサポートする
 - ⑥ 各部と連携し、公認校が外国人を雇用しやすいような環境作り
 - ・募集要項を HP にアップ
 - ・外国人教師を紹介してくれる海外の会社との連携

<支部委員会>

- (1) 支部との連携強化
 - ① 支部長会議の開催・関連のアンケート実施
 - ② 支部会計会議の開催
 - ③ 支部長の理事会傍聴
 - ④ 支部の事業計画・予算案の報告・中間報告・決算報告

総務部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 外国研修会への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ■ I S I A開催行事に役員を派遣 ■ 海外研修補助金制度の実施
	2) 支部活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 支部長会議開催 <ul style="list-style-type: none"> ・支部長会議関連のアンケートを実施し、各支部からの意見を検討して事業に反映 ・支部との関係強化を目的として、支部長会議と理事会傍聴を併せて実施 ■ 本部支部間の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・支部の事業計画・予算案の報告、中間報告、決算報告の徹底 ・支部事業に対して連携強化 ・支部会計担当者会議の開催
2. スノースポーツ指導及び技術並びに安全確保に関する研究	1) 保険加入	<ul style="list-style-type: none"> ■ 正会員・認定会員に対する補償制度の実施（正会員スキー総合保障制度加入）
3. 我が国を代表して国際スキー教師連盟 (ISIA) へ加盟	1) 総会・大会への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ■ I S I A総会へ派遣 (2020)
	2) 会議への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ■ I S I A理事会（年2回）への派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・加盟各国との交流、情報交換を行い、必要な情報を会員に伝達
	3) I S I A加盟国との交流	<ul style="list-style-type: none"> ■ I S I Aとの関係強化 <ul style="list-style-type: none"> ・SIAフェスティバル外国チーム招聘（フィンランド） ・環太平洋地域の親睦強化 <ul style="list-style-type: none"> 第1回アジア・環太平洋サミット（APSS）を実施 ■ 国際環境との連動 <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドへの取り組みを推進 ・外国人有資格者の活用＝ビザ発給要件緩和への取り組み ・外国人の入会後の円滑な活動をサポートする ・各部と連携し、公認校が外国人を雇用しやすいような環境作り 募集要項を HP にアップ 外国人教師を紹介してくれる海外の会社との連携
4. 目的を達成するための必要な事業	1) 啓蒙活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ ガバナンスの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・啓蒙活動強化としてすべての行事において、SIA 理念を唱和し啓蒙活動に努める ・おこなわれている状況に合わせた規約規程の見直しをする。 ・安全及び指導法の向上を図る(安全指導のガイドブックの配布及びセミナー情報の告知) ■ プロスノースポーツ教師として誇りを持って仕事を続けられる組織と環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・他のスポーツ諸団体との友好親善関係を構築する ・会員の夏期の仕事情報を収集・告知 ・非公認校は正にむけ諸官庁への働きかけを行う ・会員証の刷新。会員証提示による特典の基盤づくり ■ 少子高齢化へ対応した協会運営 <ul style="list-style-type: none"> ・シニア会員の活動環境の支援・整備 ・若者が資格取得を目指すきっかけづくりと、待遇の改善 ・退職後も含む中高年の方々が働きやすい環境づくり ■ 会員との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・広報部と連携し、会員に有効な割引やサービスなどの情報を提供する ・顧問・参加からご意見を戴く場を年に一度設ける ・永年会員の表彰 ・会員の意見を吸い上げるための予算化 ■ 理事選出方法について <ul style="list-style-type: none"> ・提案を作成し理事会で検討する
	2) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理事会の開催 ■ 日本インタースキー委員会に委員を派遣 ■ 総務部会の開催
	3) 事業計画・予算編成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 予算会議の開催 ■ 事業計画案の作成
	4) 予算執行状況の確認	<ul style="list-style-type: none"> ■ 財務体質の健全化 <ul style="list-style-type: none"> ・各部の責任において、予算執行を行うが、全体を見極め適切に運用する ・経費節減を目指した予算案の作成 ・年会費の自動振替の促進…自動振替化 60%を目指す ・予算執行状況の早期確認と対応 <ul style="list-style-type: none"> 毎週末、事業の執行状況、未実施事業の見通しを報告 月次収支の確認 赤字事業の見直し 事務局作業の外注⇄内製化を見極め、経費削減を行う ■ 会費収入の増加 <ul style="list-style-type: none"> ・広報部と連携し、新規会員の増加（正会員・法人賛助会員）
	5) 会員の表彰	<ul style="list-style-type: none"> ■ 永年在籍の会員に対し総会において協会として表彰する

第41期 教育部事業計画（案）

○方針：「会員の指導力・技術の向上」

<資格委員会>

(1) スノースポーツ教師資格検定会

- ① アルペンスキー・ステージⅡⅢ検定会を支部と連携して実施
- ② アルペンスキー・ステージⅡⅢ検定会の試験のみ SIA フェスティバルで実施
- ③ スノーボード、テレマークスキー・ステージⅡⅢ検定会は SIA フェスティバルで実施
- ④ ステージⅣの実技検定会は SIA フェスティバルのみ実施
- ⑤ ステージⅢ・Ⅳ検定会の基礎理論講習を東京・代々木で12月10日（火）～12日（木）に実施
- ⑥ 英語でのアルペンスキー・ステージⅡ検定会を SIA フェスティバルで実施

(2) イグザミナー認定事業

- ① イグザミナー認定会を SIA フェスティバルで実施
- ② チーフイグザミナーチームを編成し、イグザミナーの質向上を図る事による、研修・検定会の充実。
また、検定合格基準の更なる平準化を行う。

(3) I S I Aカード取得事業（G S L・山岳安全講習会）を SIA フェスティバルで実施

<研修委員会>

(1) スノースポーツ全般の指導・技術の研鑽に努めるための事業

- ① 指導力・技術向上を目的とした研修会を実施
- ② 用具知識向上を目的とした研修会を実施
- ③ 各支部との協力のもと、会員の地域性や年齢別、性別、目的別など様々な要望に応じた内容の設定をし、参加意欲の向上を図る

(2) 山岳スキー関連事業

- ① I S I Aの山岳安全講習に対応した講習を SIA フェスティバルで実施
- ② 入門クラスの参加しやすい日帰りの研修会を実施
- ③ 登山ガイド(公益社団法人日本山岳ガイド協会)認定資格養成講習会の参加促進を図る

(3) 語学力向上のための研修会

- ① インバウンド対応のための語学研修会を実施

(4) 他団体で行われている事業に参加

- ① SBB(スキー・ビンディング・ブーツ取付け調整)認定整備技術者セミナー
- ② プロスポーツ指導者連絡協議会主催「プロスポーツティーチングセミナー」
- ③ 日本赤十字社主催の「救急法一般講習」及び消防署主催の「普通救命講習」
- ④ 公益財団法人日本スポーツ協会主催研修会

<技術委員会>

(1) スノースポーツ教師のレベルアップの為の教材作成

- ① 指導力・技術向上を目的とした動画を作成しホームページにアップする
- ② 次期教程を2020年11月に発行する

(2) SIA デモンストレーター関連事業

- ① SIA フェスティバルでアルペンスキーデモンストレーター選考会を実施
- ② インタースキー及び新教程の内容を SIA フェスティバルで発表（デモンストレーション）

(3) SIA デモンストレーター・イグザミナーの研鑽に努めるための事業を実施

- ① SIA デモンストレーター合宿を実施
- ② イグザミナーを強化する合宿を実施

(4) SIA フェスティバルで技術コンテストを実施

<障がい者スキー委員会>

(1) 認定会と質向上を図る為の講習会

- ① 認定会をシーズンはじめと SIA フェスティバルで実施
- ② 障がい者スキー指導講習会に役員を派遣
- ③ 知的障がい者に関する基礎知識講習会を実施

(2) 公認校における障がい者の受け入れをサポートする事業

- ① 障がい者スキー紹介動画の作成
- ② 障がい者スキー紹介パンフレットの作成

教育部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年に対する検定・認定	1) 各種検定会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■スノースポーツ教師資格検定会 <ul style="list-style-type: none"> ・APステージII検定会の実施(令和 元年12 ~各支部) ・APステージII検定のみ実施(令和 2年 4.10 志賀高原) ・SB・TMステージII検定の実施(令和 2年 4. 9~11 志賀高原) ・AP・SB・TMステージIII基礎理論検定の実施(令和 元年12.10~12 NYC) ・APステージIII実技検定の実施(令和 元年 2~各支部) ・APステージIII実技検定の検定のみ実施(令和 2年 4.10 志賀高原) ・SB・TMステージIII検定の実施(令和 2年 4. 9~11 志賀高原) ・AP・SB・TMステージIV基礎理論検定の実施(令和 元年12.10~12 NYC) ・AP・SB・TMステージIV実技検定の実施(令和 2年 4. 9~11 志賀高原)
	2) 検定員の養成と認定	<ul style="list-style-type: none"> ■イグザミナー認定会 <ul style="list-style-type: none"> ・APイグザミナー(新規・継続)認定会の実施(令和 2年 4.10~11 志賀高原) ■I S I Aカード取得事業(親善GSL)の実施(令和 2年 4. 3 志賀高原) ■認定会と質向上を図る為の講習会 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スキー教師認定会(令和 元年12 志賀高原/令和 2年 4. 9~12 志賀高原) ■山岳スキー関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人日本山岳ガイド協会認定の資格養成講習会の参加促進を図る
2. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 各種研修会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■スノースポーツ全般の指導・技術の研鑽に努めるための事業 <ul style="list-style-type: none"> ・指導力・技術向上目的とした講習会を各支部で実施(令和 元年12~令和 2年 3) ・AP・SB・TMデモ選強化セミナー(令和 2年 4. 2~ 4 志賀高原) ・ISIA カード対応山岳安全講習会(令和 2年 4. 9~10 志賀高原) ・山岳スキー入門クラスの講習会(令和 2年 5月 2ヶ所) ・八甲田山岳スキー講習会(令和 2年 4 八甲田) ・用具(スキーブーツ)知識向上を目的とした研修会を実施(令和 2年 9) ・知的障がい者に関する基礎知識講習会を実施(令和 元年10.22 横浜ラポール) ■語学力向上のための研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド対応のための英語研修会を実施(東京&各支部 4ヶ所) ・実践中国語セミナー(令和 2年 4. 9 志賀高原) ■他団体で行われている事業に参加 <ul style="list-style-type: none"> ・S-B-B認定整備技術者セミナー(令和 元年.10月/令和 2年 8月.9月) ・プロスポーツティーチングセミナー(令和 元年11. 1 NYC) ・日本赤十字社主催の「救急法一般講習」及び消防署主催の「普通救命救急」 ・公益財団法人日本スポーツ協会主催研修会
		<ul style="list-style-type: none"> ■デモンストレーター関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ・アルペンスキーデモンストレーター選考会を実施(令和 2年 4. 6~ 7 志賀高原) ・アルペンスキー技術コンテストを実施(令和 2年 4. 6 志賀高原) ■スノーボード技術コンテストをオープン参加で実施(令和 2年 4. 6 志賀高原) ■テレマークスキー技術コンテストをオープン参加で実施(令和 2年 4. 6 志賀高原)
3. スノースポーツの普及・発展のため競技会の開催	1) 競技会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■デモンストレーター・イグザミナーの研鑽に努めるための事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーター合宿(令和 元年11.25~28 キロロリゾート) ・イグザミナー合宿(令和 元年11.27~28 キロロリゾート、令和 元年12. 5~ 6 箕輪、令和 元年12.16~17 志賀高原) ■インタースキー派遣デモンストレーター合宿を実施 ■デモンストレーター関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ・インタースキー及び新教程の内容をSIAフェスティバルで発表(デモンストレーション)(令和 2年 4. 9 志賀高原)
4. スノースポーツの指導及び技術並びに安全確保に関する研究	1) SOMの研究・伝達	<ul style="list-style-type: none"> ■スノースポーツ教師のレベルアップの為の教材作成 <ul style="list-style-type: none"> ・指導力・技術向上を目的とした動画を作成しホームページにアップする ・次期教程を2020年11月に発行する ・障がい者スキー紹介動画の作成 ・障がい者スキー紹介パンフレットの作成
5. スノースポーツに関する刊行物の発行及び映像等教材の製作	1) 教育部に係わる教材	<ul style="list-style-type: none"> ■スノースポーツ教師のレベルアップの為の教材作成 <ul style="list-style-type: none"> ・指導力・技術向上を目的とした動画を作成しホームページにアップする ・次期教程を2020年11月に発行する ・障がい者スキー紹介動画の作成 ・障がい者スキー紹介パンフレットの作成
6. その他目的を達成するために必要な事業	1) 会議等への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ■プロスポーツ指導者連絡協議会へ役員派遣 ■岩手県障がい者関係行事へ役員派遣
	2) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■教育部会、各委員会の開催

第41期 学校部事業計画（案）

○方針：

- ①健全な公認校運営の強化推進
- ②会員の活動しやすい環境づくり
- ③安全指導の強化
- ④各種技術検定の普及強化

<学校委員会>

(1) 学校長研修会の開催

- ①健全な学校運営を目的とし、SIA フェスティバルにて開催

(2) 学校運営への協力

- ①公認校の継続および新規開校の支援
 - ・公認校校長継承者不足への協対応
- ②学校部通信の発信
- ③調査資料の収集と有効活用
- ④現行の公認校制度が果たして適切なのか？現状と将来を見据えて検討を行う

(3) 運営管理

- ①移動教室ほか各種届け提出の管理徹底

(4) 公認スキー学校での技術検定の普及強化

- ①各種技術検定の推進
- ②技術検定の実施上位校の表彰
- ③検定促進の各種小冊子の制作配布
- ④各種検定に関する調査実施

<安全委員会>

(1) 安全指導の徹底

- ① 有資格者によるレッスンの徹底
- ② 「安全指導のガイドブック」を制作し配布
- ③ 安全用具の積極的な活用と普及
- ④ スキー学校賠償責任ほか各種保険の理解
- ⑤ 事故事例の情報共有
- ⑥ 全国スキー安全対策協議会との連携
- ⑦ FIS10 か条の周知

学校部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年に対する検定・認定	1) 一般愛好者対象の各種技術検定の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■公認スキー学校での技術検定の普及強化 ・各種技術検定の推進 ・技術検定の実施上位校の表彰 ・検定促進の各種小冊子の制作配布 ・各種検定に関する調査実施
2. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 教育研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■学校長研修会の開催 ・健全な学校運営を目的とし、SIA フェスティバルにて開催。
3. スノースポーツの指導及び技術並びに安全確保に関する研究	1) 学校運営への協力	<ul style="list-style-type: none"> ■学校運営への協力 ・公認校の継続および新規開校の支援 ・公認校校長継承者不足への協力対応 ・学校部通信の発信 ・調査資料の収集と有効活用 ・現行の公認校制度が果たして適切なのか？現状と将来を見据えて検討を行う
	2) 運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・移動教室ほか各種届け提出の管理徹底
	3) 安全指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ■安全指導の徹底 ・可能な限りの広報力を使い、安全なレッスンへの誘いを行う ・有資格者によるレッスンの徹底 ・「安全指導のガイドブック」を制作し配布 ・安全用具の積極的な活用と普及 ・スキー学校賠償責任ほか各種保険の理解 ・事故事例の情報共有 ・全国スキー安全対策協議会との連携 ・FIS10 か条の周知
4. その他目的を達成するために必要な事業	1) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・学校部会議の開催
	2) 関連団体への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・全国スキー安全対策協議会・日本スポーツ用品工業協会・日本スポーツ産業振興協会等の各機関に協力して活動する

第41期 広報部事業計画（案）

- 方針 ①一般愛好者へのスノースポーツの普及
- ②広報活動の推進

<普及委員会>

(1) スノースポーツの活性化を図る事業の実施

- ①一般愛好者を対象に、S I Aデモンストレーターによる講習会を2月に実施
- ②一般愛好者が参加できる事業をスノースポーツ専門誌及びWeb上に紹介
- ③一般愛好者を対象にしたジュニアスキー技術コンテスト・マスターズスキー技術コンテストを4月のS I Aフェスティバルで実施
- ④公益社団法人日本オリエンテーリング協会主催（3月）の歩くスキー(ラヴラウスキー)を使った「スキーオリエンテーリング大会」を後援

(2) S I Aの紹介と普及

- ①S I Aの様々な活動を、スキー専門誌及びWEB上に紹介

(3) 事業を推進する為の活動

- ①「スキーの日」（1月12日）上越市主催の式典「レルヒ少佐の顕彰会」と特別講習会等への参加
- ②「クリーンキャンペーン」を公認校のあるスキー場とS I Aフェスティバル会場で清掃活動を実施
- ③地球温暖化防止…国民運動「COOL CHOICE（＝賢い選択）」へ参加
- ④アルペンスキーの普及支援として「メダリスト育成募金」を実施

<広報委員会>

(1) 会員及び一般向けに協会の活動情報を公開するため、ホームページ、機関誌等の制作

- ①ホームページの刷新と内容の充実による魅力向上・会員マイページの設定による利便性向上
- ②Youtube等の動画の発信による情報共有とS I Aのアピール力向上
- ③会員・一般向け決済の利便性をあげ、サービス力向上。
- ④教程等の教材および、Eラーニングの使用による利便性向上
- ⑤協会の活動状況をホームページ及びSNSで発信
- ⑥機関誌「S I Aニュース」を年2回（1月、6月）発行
- ⑦ジュニア国際スキー技術検定を含むMy Ski Bookの促進
- ⑧新規入会促進のビジュアル作成
- ⑨S I Aポスターのデザインを会員及び一般より公募

(2) 一般愛好者に対し、事業の広報・宣伝及び事業実施等の促進

- ①一般愛好者の事業参加を促進するため、S I Aの理念、事業計画に基づき、スキー専門誌及びWeb上にタイアップ広告・宣伝記事を掲載

(3) 賛助会員・プレスへの対応

- ①賛助会員懇談会・懇親会を開催
- ②新規入会の促進
- ③S I Aフェスティバル会場に賛助会員の展示ブースを設置
- ④S I Aフェスティバルにおいて懇談会を開催
- ⑤一般愛好者の個人賛助会員への入会を推進…個人賛助会員をS I A ニュースで紹介、S I A ニュースの送付、各種イベントの案内送付

(4) マーケティングの実施

- ①オフィシャルグッズ等に「JAPAN Professional Ski」ロゴを採用
- ②賛助会員主催の展示会場においてS I A ブースを設置し、一般愛好者の情報を収拾
- ③S I A デモンストレーターを活用した広報活動

<物 販>

スキーをはじめとするスノースポーツの各技術に関する教程本、DVD等の教材並びにその他公益目的事業に関連する物品の製作・仕入れ、販売

(1) 会員及び一般愛好者向けの教程本、DVD等の教材並びにワッペン、ネームプレート、オリジナルグッズ等の製作・仕入れ、販売

- ①公認スキー学校に対し、ネームプレートを受注製作・販売
- ②S I A フェスティバル記念Tシャツを製作・販売
- ③オリジナルグッズを製作・販売
- ④在庫している物品を継続販売

広報部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年に対する検定・認定	1) 一般愛好者対象の各種技術検定の実施	<p>■スノースポーツの活性化を図る事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般愛好者を対象に、国際スキー技術検定の講習&検定を4月のS I Aフェスティバルで実施 「SIA スーパーゴールド検定キャンプ」(令和2.4.4 志賀高原)
2. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 一般愛好者対象の各種講習会の開催	<p>■スノースポーツの活性化を図る事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般愛好者を対象に、S I Aデモンストレーターによる講習会を2月に実施 「SIA デモンストレーターキャンプ」(令和2.2.8～9 木島平) ・公益社団法人日本オリエンテーリング協会主催の歩くスキー(ワグワグスキー)を使った「スキーオリエンテーリング大会」を後援 (令和2.3月 安比高原)
3. スノースポーツの普及・発展のため競技会の開催	1) 青少年及び一般愛好者対象の競技会の開催	<p>■スノースポーツの活性化を図る事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般愛好者を対象にしたジュニアスキー技術コンテスト・マスターズスキー技術コンテストを4月のS I Aフェスティバルで実施 (令和2.4.5 志賀高原)
4. その他目的を達成するために必要な事業	1) 広報活動	<p>■S I Aの紹介と普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S I Aの様々な活動を、スキー専門誌及びWEB上に紹介 <p>■会員及び一般向けに協会の活動情報を公開するため、ホームページ機関誌等の制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの刷新と内容の充実による魅力向上・会員マイページの設定による利便性向上 ・Youtube等の動画の発信による情報共有とS I Aのアピール力向上 ・会員、一般向け決済の利便性をあげ、サービス力向上 ・教程等の教材および、Eラーニングの使用による利便性向上 ・協会の活動状況をホームページ及びSNSで発信 ・機関誌「S I Aニュース」を年2回(1月、6月)発行 ・ジュニア国際スキー技術検定を含むMy Ski Bookの促進 ・インストラクターの新規入会促進のビジュアル作成 ・協会の活動状況を、ホームページ及びFacebookで発信 ・S I Aポスターのデザインを会員及び一般より公募 <p>■一般愛好者に対し、事業の広報・宣伝及び事業実施等の促進</p> <p>一般愛好者の事業参加を促進するため、SIAの理念、事業計画に基づき、スキー専門誌及びWeb上にタイアップ広告・宣伝記事を掲載</p>
	2) 賛助会員・プレスとの協力	<p>■賛助会員・プレスへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S I A賛助会員・プレスとの懇談会・懇親会を開催 (令和元.11.15) ・新規賛助会員(法人・個人)入会の促進 ・S I Aフェスティバル会場に法人賛助会員の展示ブースを設置 ・S I Aフェスティバルにおいて懇談会を開催
	3) 社会への貢献活動	<p>■事業を推進する為の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スキーの日」(1月12日)上越市主催の式典「レルヒ少佐の顕彰会」と特別講習会等への参加 ・「クリーンキャンペーン」を公認校のあるスキー場とS I Aフェスティバル会場で清掃活動を実施 ・地地球温暖化防止…国民運動「COOL CHOICE(=賢い選択)」へ参加 ・アルペンスキーの普及支援として「メダリスト育成募金」を実施
	4) マーケティング事業	<p>■マーケティングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実をはかり、S I Aの広報を促進 ・オフィシャルグッズ等に「JAPAN Professional Ski」ロゴを採用 ・賛助会員主催の展示会場においてSIAブースを設置し、一般愛好者の情報を収集 ・SIAデモンストレーターを活用した広報活動
	5) 会議の開催	<p>■広報部会議の開催</p>
	6) 物販	<p>■会員及び一般愛好者向けの教程本、DVD等の教材並びにワッペン、ネームプレート、オリジナルグッズ等の製作・仕入れ、販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認スキー学校に対し、ネームプレートを受注製作・販売 ・SIAフェスティバル記念Tシャツを製作・販売 ・オリジナルグッズを製作・販売 ・在庫している物品を継続販売